

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
東洋医療専門学校	平成12年3月31日	太田 宗夫	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35 (電話) 06-6398-2255																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人新歯会東洋医療学園	平成12年3月31日	宮川 藤一郎	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35 (電話) 06-6398-2255																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士																				
医療	医療専門課程	鍼灸師学科	平成6年文部科学省 告示第84号 —																				
学科の目的	職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとし、広い視野を持って現実を見つめ、豊かで柔軟な感性と人格を身に付け、基本的知識・技術を体系的に投入、常に新しい技術を追求し、未来を見つめる「心構え」すなわち「主体性」を持った社会に必要な歯科技工士の養成を目指している。この「主体性」の修得こそ本校が自負する教育であり、三つの教育理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を柱に「主体性」を持って、現代社会で自己の未来を切り開いていく新鋭的歯工士・歯匠と顧客を持った人間の育成、企業家リーダーとされる人材の育成を教育の目標、目的としている。																						
認定年月日	平成14年3月29日																						
修業年限	昼夜 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習 実習 実験 実技																				
3年	2520時間	1710時間	810時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数 兼任教員数 総教員数																				
90人	90人	0人	9人 50人 59人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 100点満点、60点以上合格																				
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月10日 ■学年末:3月31日	卒業・進級条件	学年を通じて所定の授業時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上の合格点を取ったもの。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者面談を経て補習を行う	課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 トレーナー活動参加など ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 鍼灸院・接骨院・美容・福祉・スポーツ ■就職指導内容 キャリアセンターによる、社会人基礎力講座を開講 ■卒業生数 : 29 人 ■就職希望者数 : 19 人 ■就職者数 : 19 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 66 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・一時的な仕事についていた者 9名 ・上記以外の者 0名 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はり師</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>きゅう師</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	はり師	②	29人	20人	きゅう師	②	29人	20人								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
はり師	②	29人	20人																				
きゅう師	②	29人	20人																				
中途退学の現状	■中途退学者 3 名 平成28年4月1日時点において、在学者96名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者83名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学力不振・経済的理由・進路変更など ■中途退学・中途退学者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 導入教育の充実、個人面談、三者面談の実施など	■中途退学率 3 %																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.tovoirvo.ac.jp/gakka/amt/">http://www.tovoirvo.ac.jp/gakka/amt/</a>																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めず、家事手伝い、一時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学校法人新歯会東洋医療学園が設置する東洋医療専門学校の教育課程の編成における基本方針は、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

東洋医療専門学校教育課程編成委員会規程第2条に明記されているように教育課程編成委員会は、法人の最高意思決定機関である法人理事会の直下に置かれている。組織図参照規定第3条及び第4条のとおり理事長が事務局委員長となりその他の構成メンバーは法人理事会により承認される。具体的には学校の各セクションの責任者と、専門分野に関する企業の役員など広く選任されている。教育課程編成委員会で得た企業等の意見や要望は学科内で要約されカリキュラムへの反映を事業計画発表会で共有し次年度事業計画に盛り込まれる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	学科	種別
小原 雅生	一般社団法人大阪府歯科技工士会南大阪支部 支部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	歯科技工士学科	①
内木 雄一	有限会社ナイキ歯研 代表	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	歯科技工士学科	③
林 靖之	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 千里救急センター 副院長兼救急(外科)センター長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	救急救命士学科	①
岩崎 好子	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 副看護部長兼ICU看護師長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	救急救命士学科	③
辻 節子	医療法人仙養会 北摂総合病院 看護部 部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	鍼灸師学科	③
富永 礼子	一般社団法人鍼灸保険協会大阪 代表理事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	鍼灸師学科	①
西川 和義	株式会社 西川東洋医学研究所 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	鍼灸師学科	③
高瀬 裕司	桜鍼灸整骨院 木川東 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	鍼灸師学科	③
徳山 健司	公益社団法人大阪府柔道整復師会 副会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科	①
田中 信行	田中整骨院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科	③
布田 久登	ぬの整骨院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科	③
【学校事務局】				
宮川 藤一郎	東洋医療専門学校 理事長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)		
太田 宗夫	東洋医療専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)		
古谷 圭司	東洋医療専門学校 次長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)		
山下 裕子	東洋医療専門学校 教務事務	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)		
杉田 順弘	東洋医療専門学校 教務副部長 歯科技工士学科 学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	歯科技工士学科	
大石 直之	東洋医療専門学校 歯科技工士学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	歯科技工士学科	
豊田 日出美	東洋医療専門学校 救急救命士学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	救急救命士学科	
喜代平 要一	東洋医療専門学校 救急救命士学科 専任教員	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	救急救命士学科	
真田 浩二	東洋医療専門学校 鍼灸師学科 学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	鍼灸師学科	
松本 菜	東洋医療専門学校 鍼灸師学科 専任教員	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	鍼灸師学科	
山田 靖典	東洋医療専門学校 柔道整復師学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科	
岩崎 英明	東洋医療専門学校 柔道整復師学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する見解を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催される。また前期後期の授業開始前に時期には、実習指導を行う企業からの講師との意見交換や、情報共有の機会として講師会議を開催している。

(開催日時)

- 第1回 平成29年7月2日 11:00～13:00
- 第2回 平成29年11月12日 9:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会で得た意見や要望は事業計画発表会において学校全体で共有し、各学科の次年度事業計画に盛り込まれ、カリキュラムや指導方法に反映する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々進化する医療業界では、新しい技術や新しい知識の習得が重要である。企業と連携した実習・演習を通じ、最先端の技術・知識習得を目的とする。また、技術・知識だけでなく目指す業界の方々と接することにより学習意欲・就業意欲向上を目指している。実習・演習等で学んだ知識・技術が将来における臨床現場で活用され、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともに、実社会におけるルール等を肌で感じ職業観・勤労観を育成するとともに、自らの適性を見つめながら具体的な将来像を描き、社会人としての総合的な人間力を高めること基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学外では実習指導要領に基づいて、企業と実習内容の詳細打ち合わせを事前に実施し、学内での事前オリエンテーションでは考え方・行動・姿勢を十分説明し、企業および担当者にも失礼のないよう指導する。この実習期間中は企業担当者や担当教員と問題点を有無を相談し、問題点が発生すれば対応を行う。学内の演習においては企業が求める人材に必要な到達度について企業と事前に授業内容の打ち合わせを行った上で授業計画を立案し、それに基づいた演習の実施、及び評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
情報処理	パソコンを用いた情報処理技術の基礎的な操作方法を身につける。	株式会社 ワークアカデミー
保健体育	スポーツマッサーズ、スポーツ傷害の発生・予防法などを学ぶ。	有限会社浅田コーポレーション/アサダ接骨院
はりきゅう実技①⑥⑬	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	田邊整骨院
はりきゅう実技⑤⑨	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	杏林会鍼灸整骨院
はりきゅう実技⑦	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	清藤鍼灸院
はりきゅう実技⑩	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	山本鍼灸整骨院
はりきゅう実技⑪	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	たかぎ産能(ゆのう)鍼灸院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、資質・能力の向上を研修の基本方針としている。  
 教職員研修課程に基づき、担任マニュアル・教職員研修マニュアル・講師マニュアルに拠り研修を実施している。具体的には、業界で求められる最新の知識・技術を習得するための業界が主催する学会への参加、大阪府専修学校各種学校連合会の主催する教員研修に積極的に参加している。  
 遠征学習グループ内では教育の質的向上を目指すために独自の研究機関として生涯教育科学研究所を設置し、教育システムの構築・教育ノウハウの蓄積を行っている。また専門分野に分かれた委員会が設置されており、より教育の質向上に向けた研修が行われている。その他としては、学生指導に関わる人・カリキュラム・教材・環境に関する各委員会による研修も行っている。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・文部科学省委託事業 報告 超高齢社会における認知症患者に寄り添う医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材の育成
- ・全日本鍼灸学会学術大会
- ・日本良導絡自律神経学会学術大会

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・FDマイクロレベル研修
- ・FDマイクロレベルフォローアップ研修
- ・解剖実習

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・鍼灸医療系教員のための認知症セミナー
- ・全日本鍼灸学会学術大会
- ・東北鍼灸学会学術大会

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・FDミドルレベル研修
- ・教職員カウンセリング研修
- ・中堅教員研修会(キャリアデザインワークショップ)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか・学校の特色は何か・学校の将来構想を抱えているか
(2) 学校運営	・運営方針は定められているか・事業計画は定められているか・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか・人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか・意思決定システムは確立されているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか・カリキュラムは体系的に編成されているか・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか
(4) 学修成果	・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか・授業評価の実施・評価体制はあるか・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教員の専門性を向上させる研修を行っているか・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか・資格取得の指導体制はあるか
(5) 学生支援	・就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか・退学率の低減が図られているか・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(6) 教育環境	・就職に関する体制は整備されているか・学生相談に関する体制は整備されているか・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・課外活動に対する支援体制は整備されているか・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか・保護者と適切に連携しているか・卒業生への支援体制はあるか・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より得た意見については、運営会議・全体会議などにおいて学校全体で共有される。  
 ・カリキュラムや指導方法への要望 → 学科ミーティングで改善策を協議し実行している。  
 ・学校運営などへの要望 → 事業計画書に反映。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
小原 雅生	一般社団法人大阪府歯科技工士会南大阪支部 支部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	保護者
布田 久登	ぬの整骨院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生
小早川 真一	大阪府立牧野高等学校 教頭	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	高等学校
内木 雄一	一般社団法人大阪府歯科技工士会南大阪支部 支部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(歯科技工士学科)
林 靖之	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター 副院長兼救急(外科)センター長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
岩崎 好子	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 副看護部長兼ICU看護師長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
辻 節子	医療法人仙養会 北摂総合病院 看護部 部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
富永 礼子	一般社団法人鍼灸保険協会大阪 代表理事	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
西川 和義	株式会社 西川東洋医学研究所 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
高瀬 裕司	桜鍼灸整骨院 木川東 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
徳山 健司	公益社団法人大阪府柔道整復師会 副会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)
田中 信行	田中整骨院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)
【学校事務局】			
宮川 藤一郎	東洋医療専門学校 理事長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
太田 宗夫	東洋医療専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
古谷 圭司	東洋医療専門学校 次長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
山下 裕子	東洋医療専門学校 教務事務	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
杉田 順弘	東洋医療専門学校 教務副部長 歯科技工士学科 学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
大石 直之	東洋医療専門学校 歯科技工士学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
豊田 日出美	東洋医療専門学校 救急救命士学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
喜代平 要一	東洋医療専門学校 救急救命士学科 専任教員	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
真田 浩二	東洋医療専門学校 鍼灸師学科 学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
松本 菜	東洋医療専門学校 鍼灸師学科 専任教員	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
山田 靖典	東洋医療専門学校 柔道整復師学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
岩崎 英明	東洋医療専門学校 柔道整復師学科 副学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法→ホームページ  
公開時期→9月に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開及び開示に関し、学校が必要な事項を定め、当該情報を積極的に公開することにより、教育活動や取り組みについて広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会全体からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、沿革、学校の特色(教育活動、カリキュラム) 教育目標、教育指導方針
(2)各学科等の教育	定員数、入学者数、在校生数、カリキュラム(科目構成、授業時間数)、進級・卒業の要件(成績評価基準、卒業の認定基準)、目指す資格・検定等、資格取得等の実績、卒業生数、卒業後の進路(進学者数、主な就職先、就職者数)
(3)教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織・活動(教職員の研修・研究活動)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、部活動・放課後活動・生徒会活動等の状況、家庭・地域・企業等との連携による取り組み、他の学校との連携による取り組み等の状況
(6)学生の生活支援	学生の生活指導への取組状況(指導上の諸問題(中途退学、不登校など)の状況及びそれに対する学校の対応や指導の状況、心のケアの体制整備等に関する状況、留学生支援や障がい者支援も含め学校が取り組む様々な学生支援)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(金額や納入時期等)、活用できる経済的就学支援措置の内容(授業料減免措置、奨学金等の案内)
(8)学校の財務	財務諸表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方針
(10)国際連携の状況	外国の学校等との交流状況(教員・学生間交流や単位互換等に関する実績)
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<http://www.tovoirvo.ac.jp/gakko/ivyuhou/>

○			総合領域⑥ Synthetic Studies ⑥	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3 通	60	4	○			○				○
○			総合領域⑦ Synthetic Studies ⑦	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3 通	60	4	○			○				○
○			総合領域⑧ Synthetic Studies ⑧	内・外的障害における機能回復・社会復帰を目的とした理学療法(物理療法・運動療法・日常生活活動訓練)を学ぶ。	3 前	30	1	○			○				○
合計															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上		1学年の学期区分	前後期
		1学期の授業期間	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸師学科昼間部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報処理 Information Processing Technology	パソコンを用い情報処理技術の基礎的な操作方法を身につける。	1前	30	1		○		○			○	
○			社会学 Sociology	東洋医学に関係する社会学を学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
○			心理学 Psychology	発達心理、人格形成、人間の行動などを学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
○			外国語① Foreign Language ①	医学英語の習得とともに、英語による患者とのコミュニケーション方法を学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
○			外国語② Foreign Language ②	中国語の読み書き、会話、および中国の文化などを学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
○			保健体育 Health and Physical Education	スポーツマッサージ、スポーツ傷害の発生・予防法などを学ぶ。	3前	30	1		○		○				○ ○
○			経営マネジメント Office Management	鍼灸院開業に際して必要な知識、想定される諸問題の解決方法を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			自然療法概説 Outline of Naturopathy	芳香療法（アロマセラピー）について学ぶ。	1前	15	1	○			○				○
○			解剖学① Anatomy ①	人体の構造を中心とした基礎的内容を学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
○			解剖学② Anatomy ②	人体の構造を中心とした基礎的内容を学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	

○			生理学① Physiology ①	人体の機能を中心とした基礎的内容を学ぶ。	1通	60	4	○			○					○
○			生理学② Physiology ②	人体の機能を中心とした基礎的内容を学ぶ。	1通	60	4	○			○					○
○			解剖生理学 Anatomy and Physiology	人体の構造と機能を総合的に学ぶ。	2通	60	4	○			○				○	
○			病理学概論 Outline of Pathology	疾病の原因、病理学像などの基礎的内容を学ぶ。	2通	60	4	○			○					○
○			臨床医学総論 ① Clinical Medicine in General ①	主に西洋医学的な立場から疾病の診断方法などを学ぶ。	2通	60	4	○			○				○	
○			臨床医学総論 ② Clinical Medicine in General ②	主に西洋医学的な立場から疾病の診断方法などを学ぶ。	2後	30	2	○			○				○	
○			臨床医学各論 ① Clinical Medicine Part ①	主に西洋医学的な立場から疾病の診断方法などを学ぶ。	2通	60	4	○			○				○	
○			臨床医学各論 ② Clinical Medicine Part ②	主に西洋医学的な立場から疾病の診断方法などを学ぶ。	2通	45	3	○			○				○	○
○			臨床医学各論 ③ Clinical Medicine Part ③	主に西洋医学的な立場から疾病の診断方法などを学ぶ。	3前	30	2	○			○				○	
○			リハビリテーション医学① Rehabilitation Medicine ①	リハビリテーションの概念、方法、対象疾患毎の具体的ケアなどについて学ぶ。	2後	30	2	○			○				○	
○			リハビリテーション医学② Rehabilitation Medicine ②	リハビリテーションの概念、方法、対象疾患毎の具体的ケアなどについて学ぶ。	3前	30	2	○			○				○	
○			医療概論 Outline of Medicine	医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理などを学ぶ。	2前	15	1	○			○					○
○			衛生学公衆衛生学 Hygiene and Public Health	健康や保健に関する問題を学ぶ。	1通	45	3	○			○				○	
○			東洋医学概論 ① Outline of Oriental Medicine ①	自然観、疾病の原因、病理学像等の東洋医学的な基礎理論を学ぶ。	1通	60	4	○			○				○	○

○		東洋医学概論 ② Outline of Oriental Medicine ②	自然観、疾病の原因、病理学像等の東洋医学的な基礎理論を学ぶ。	2 前	30	2	○			○					○	○
○		はりきゅう理 論① Scientific Foundation of Acupuncture ①	鍼灸の治効理論、生体への効果などを学ぶ。	1 前	30	2		○		○					○	
○		はりきゅう理 論② Scientific Foundation of Acupuncture ②	鍼灸の治効理論、生体への効果などを学ぶ。	2 後	30	2		○		○					○	
○		経絡経穴概論 ① Outline of the Meridians and Acupuncture Points ①	経絡・経穴の概念、位置、機能などを学ぶ。	1 通	60	4		○		○					○	○
○		経絡経穴概論 ② Outline of the Meridians and Acupuncture Points ②	経絡・経穴の概念、位置、機能などを学ぶ。	2 前	30	2		○		○					○	○
○		東洋医学臨床 論 Clinical Oriental Medicine	主に東洋医学的な立場から疾病の診断、治療方法などを学ぶ。	2 通	60	4		○		○					○	○
○		物理療法概説 Outline of Physical Therapy	物理療法全般における治効理論、基本的操作、臨床応用などを学ぶ。	3 後	30	2		○		○					○	
○		関係法規 Legal Issues in Medicine	あはき法など、鍼灸師に関連する法規について学ぶ。	3 後	30	2		○		○					○	
○		はりきゅう実 技① Practice of Acupuncture and Moxibustion ①	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	1 通	60	2		○		○					○	○
○		はりきゅう実 技② Practice of Acupuncture and Moxibustion ②	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	1 通	60	2		○		○					○	○
○		はりきゅう実 技③ Practice of Acupuncture and Moxibustion ③	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	1 通	60	2		○		○					○	○
○		はりきゅう実 技④ Practice of Acupuncture and Moxibustion ④	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	2 通	60	2		○		○					○	○
○		はりきゅう実 技⑤ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑤	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	2 前	30	1		○		○					○	○
○		はりきゅう実 技⑥ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑥	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	2 前	30	1		○		○					○	○



○		はりきゅう実技⑦ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑦	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	2通	60	2		○	○					○	○
○		はりきゅう実技⑧ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑧	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	2後	30	1		○	○					○	○
○		はりきゅう実技⑨ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑨	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	2後	30	1		○	○					○	○
○		はりきゅう実技⑩ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑩	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	3通	120	4		○	○					○	○
○		はりきゅう実技⑪ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑪	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	3通	60	2		○	○					○	○
○		はりきゅう実技⑫ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑫	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	3前	30	1		○	○					○	○
○		はりきゅう実技⑬ Practice of Acupuncture and Moxibustion ⑬	鍼を刺す、灸をすえるといった鍼灸師として最も基本となる技術や施術法を習得する。	3後	30	1		○	○					○	○
○		臨床実習① Clinical Education ①	患者への施術を通し、卒業後の臨床現場を想定した諸問題の解決方法を学ぶ。	3前	45	1		○	○					○	○
○		臨床実習② Clinical Education ②	患者への施術を通し、卒業後の臨床現場を想定した諸問題の解決方法を学ぶ。	3後	45	1		○	○					○	○
○		総合領域① Synthetic Studies ①	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	1通	60	4	○		○					○	
○		総合領域② Synthetic Studies ②	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	2通	60	4	○		○					○	
○		総合領域③ Synthetic Studies ③	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3通	60	4	○		○					○	○
○		総合領域④ Synthetic Studies ④	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3通	60	4	○		○					○	
○		総合領域⑤ Synthetic Studies ⑤	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3通	60	4	○		○					○	

○			総合領域⑥ Synthetic Studies ⑥	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3 通	60	4	○			○			○
○			総合領域⑦ Synthetic Studies ⑦	国家試験や卒後に役立つさまざまな知識・技術について幅広く学ぶ。	3 通	60	4	○			○			○
○			総合領域⑧ Synthetic Studies ⑧	内・外的障害における機能回復・社会復帰を目的とした理学療法(物理療法・運動療法・日常生活活動訓練)を学ぶ。	3 前	30	1	○			○			○
合計														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上		1学年の学期区分	前後期
		1学期の授業期間	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。